

(株)ムジカ・チェレステ社長
ソプラノ歌手 佐藤智恵さん

「エンターテイメント・クラシック®」を掲げる

2月21日 倉敷でオペレッタ上演

佐藤さんは中学生の時の、今の自分につながる音楽の忘れられない経験をした。小学校3年生で合唱団に入り、中学の時に演奏旅行で訪れたヨーロッパで、ユダヤ人の大虐殺が行われたアウシュビッツ強制収容所を見学。激しいショックを受けた。しかし翌日、オーストリアのレストランで歌って踊るライブパフォーマンスを見て、前日大泣きして

いたメンバーが笑顔になった。そのギャップに心が揺さぶられ、「辛い時でも笑顔にしてくれる歌の力はとても大きい」と実感。音楽で世界平和に貢献したいと考えるようになり、帰国後、音楽を始め、ミュージカルにも取り組んだ。

東京音楽大学、同大学院音楽研究科科目履修生として音楽を専門に学び、卒業後、クラスメイトと共に音楽団体を立ち上げてコンサート活動を始めた。アルバイトをしながら小さなリ



万里子の首都圏レポート 27

本誌記者・小林万里子が東京に転居。首都圏で、備後及びその周辺地域にゆかりのあるヒト・モノ・コトを見つけてお届けします。読者が元気になる情報をキャッチしたいと思えますので、皆さんからも情報があれば、本誌までお寄せ下さい。

士、日本舞踊の踊り手など、多岐にわたるジャンルの人を取り入れることで、オペレッタの幅が広がる」と目を輝かせる。

ソプラノ歌手としてオペレッタで主役を張ることも多い佐藤さんは、舞台ではマイクを通さない生声を響かせるために、いつもバレエレッスンなどで体を鍛えている。「ひとつの公演で2〜3kg体重が落ちる。体は楽器。だから、楽器を傷つけないよう、汚れないよう常に配慮している」。例えば、肩が歪まないようにバッグの片掛けはせずリュックを使うなど、普段



ムジカ・チェレステ社長の佐藤智恵さん

サイタルを積み重ね、2014年5月に音楽イベントの企画・制作や演奏派遣、音楽教室運営などを軸とする音楽事務所(株)ムジカ・チェレステ(東京都渋谷区松濤1-8-16アトラス松濤3F、電話03-6804-9702)を設立した。ラテン語でムジカは音楽を、チェレステは天国・天使を指し、虹も意味する。「心に雨が降っているような時でも、音楽を聴いて虹のように明るい気分になれるようにと名づけた」とのこと。佐藤さん自



倉敷公民館で上演されるオペレッタ「ルクセンブルク伯爵」のポスター

身も歌って踊れるソプラノ歌手」として、ステージに立つ。

社長とアーティストという二足の草鞋を履く佐藤さんだが、最初の頃は様々な葛藤があったと打ち明ける。「アーティストだった時とは異なり、経営者として事業を黒字にすることを意識しなくてはならない。理想を追って失敗して赤字を出すなど、理想と現実とのギャップで苦しんだ時期もあった」。その後、幸いにも経験のある運営スタッフや共同経営者に恵まれて安定した。現在登録アーティストは約400人を数え、演

から気を使っているようだ。佐藤さんは1年に1回、故郷・倉敷でオペレッタを上演している。「クラシックって、こんなに楽しいんだよと、ふるさとの人々にも知ってもらいたい」とほほ笑む。今年2月21日「日」午後1時半から、倉敷公民館でオペレッタ「ルクセンブルク伯爵」を上演予定。全席指定で、プレミアム席5千円、大人3500円、大学・高校生1500円、中・小学生1千円。問い合わせはムジカ・チェレステまで。

▽佐藤智恵さん 1983年8月生まれ。倉敷市出身。岡山城東高校から東京音楽大学へ。同校卒業後、同大学院音楽研究科科目履修生として音楽を学ぶ。(株)ムジカ・チェレステ社長、ソプラノ歌手。フランスの音楽家、ナタリー・デセイをリスペクト。「小柄だけどパフォーマンスがダイナミック。もともと女優だったので、表現力が素晴らしい」と絶賛する。

奏派遣や2カ月に一度の主催公演など、「コロナ以前は、多い時で年間100公演を行っていた」と精力的だ。コロナ禍対応で、最近ではインターネットでの配信にも乗り出したという。

同社は「オペレッタ」がメイン。オペラに比べてオペレッタは演劇の比重が大きくエンターテイメント性が強いと言われている。佐藤さんも「オペレッタは、ミュージカルとクラシックオペラ両方のすばらしさを兼ね備えている」と話す。「一般的にクラシックという取っ付きにくい壁があるように感じられているが、そういうものを取り払って自分の感覚で楽しんでもらいたい」と熱を込める。同社では「エンターテイメント・クラシック®」を掲げ、常設劇場設立を目指している。「ミュージカルのエンターテイメント性をしっかりと押し出し、生演奏を通して親しみやすく楽しいクラシック音楽を届けたい。バレエダンサー、俳優、活弁